

これまでに招いたのは **299 人**

研修生 **147 人** / 短期研修生 **84 人** / ゲスト **68 人**
(うち国内研修生 **25 人** / 短期国内研修生 **1 人**)



設立の経緯：PHD協会は、1962 年から約 20 年間ネパールで医療活動に従事した岩村昇医師が自らの経験と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を超えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱し、1981 年に設立。

草の根の人々による村づくりへの協力

アジア・南太平洋の村の青年を研修生として日本に招き、農業、保健衛生、地域組織化などの研修を行い、帰国後もフォローアップを行うことを通じて、草の根の人々による村づくりと生活向上に協力します。

そこからわたしたちも行動する

日本の人々もアジア・南太平洋の人々との交流を通して学ぶことはたくさんあります。そこから、毎日の生活を問い直し、草の根の人々と共に生きることのできる生活を、足元から実践するための活動を続けています。

村のために、1 年間、日本各地で学びます。

第 34 期研修生紹介



リンダ・エルニタ さん / 23 歳

インドネシア

西スマトラ州ソロ郡タラタジャラン村出身。州都パダンからバスで 3 時間程内陸部にはいった山村で、人口約 900 人、220 世帯、標高約 1,100m に位置しています。

若くして結婚し既に 1 児の母。生活は経済的に困難で政府から医療費の補助を受けざるを得ない状況です。現地では PHD インドネシアの洋裁工房が発足しており、そこで活動するためにも洋裁を学びたいと意気込んでいます。また母として子ども達の教育や栄養にも興味があり、同村出身のエリザさん(11 年度)が勤める幼稚園でも活動中で、保育についても日本で学びます。「進学しなかったけど、お金がなくてできなかった。もう 23 歳。生活のために良い知識を得たい」と日本にやってきました。



研修テーマ：保育、洋裁、保健衛生
宗教：イスラム



スリザナ・シャハ・タクリ さん / 20 歳

ネパール

首都カトマンズから南東にバスで 3 時間、そこから徒歩で約 4 時間かかるラジャバス村から初の研修生です。標高 1,700 m にある村で人口約 850 人、230 世帯。2015 年 4 月の地震では被害が大きかった地域の出身です。

家族は母、2 人の弟、妹の 5 人。父親は中東での出稼ぎ後、病没。父が遺してくれた家も地震で倒壊し現在は仮設住まい。妹と弟の学費のために朝早くから草刈りや水汲みに奔走する生活。重要な働き手ですが「娘に一生草刈りだけをさせるのは忍びない」という母の涙と想いを受けて来日しました。「村には医療施設がない。病気の予防や応急手当を学びたい。できれば帰国後は医療従事者として働きたい」と語るスリザナさん。夢は村にある簡易的な医療施設にて、被災地域の健康増進に寄与することです。

ティダチョー さん(通称：マーチョ) / 24 歳

ミャンマー

古都マンダレーから車で約 1 時間半、ウーインリー村から初の研修生です。人口約 1,100 人、250 世帯。タダインシェ村と比べてアクセスの悪い村で、電気はまだ通っておらずトイレの数なども少ないです。

祖母、母、叔父、弟との 5 人暮らし。高校卒業後、洋裁を学び、現在は村で仕立屋をしています。注文を受け、普段着から結婚式の服まで作ります。

ボランティア活動にも熱心でモーママさん(13 年度)達と一緒に、保健衛生の啓発やシンプルライフの活動を行ってきました。また自分の村では「村の人はゴミをあちらこちらに簡単に捨てるので雨季になると汚くなり問題」と語り、地域のごみを集める活動を頑張ってきました。「話すのが上手」と評判で、帰国後の普及活動にも期待が大きい研修生です。



研修テーマ：保健衛生、洋裁、有機農業
宗教：上座部仏教